

14. 国際交流

(イ) 国際交流の組織とその位置づけ

国際交流は、学園に国際交流委員会を設け、この委員会を事務組織である学術支援機構が支える形で取り組んでいる。委員会は、大学4～5名、短期大学部2名、附属高等学校1名、事務局1～2名の各委員で構成する。委員会の審議事項は大学各学部および短期大学部教授会また附属城東高校で報告を行い、国際交流を全学園的な行事に位置づけている。

(ロ) 国際交流活動

国際交流活動の中心は姉妹校間の提携による、学生の短期集中語学・文化研修、学生交換留学、教員による集中講義、教職員の相互訪問による教育・研究情報の交換、研究成果を発表する姉妹校国際合同セミナーの開催等である。また国際交流提携活動も活発に行っており、平成13年度に南京理工大学（中国）、亞洲大学校（韓国）および本学の3校で学長フォーラムと短期・長期学生交換プログラムの交流覚書を新たに締結した。同じ平成13年度に、オレゴン州立大学（米国）工学部と学術交流協定および学生交換留学協定を締結した。平成13年度、14年度には、オーストラリアのバララット大学で夏期英語研修・ホームステイを3週間の日程で実施したが、平成15年度はSARS（重症急性呼吸器症候群）の発生により中止した。交流協定校南京理工大学（中国）での集中講義は引続き毎年実施している。

平成13年度から平成15年度にいたる諸活動の概要を巻末資料53～56に示す。

・交流協定校との交流

交流協定校各校との交流活動は亞洲大学校、南京理工大学、バララット大学の3校に集中した。平成13年度よりバララット大学において、大学院学生、学部学生、短期大学学生を対象にして、夏期英語研修を実施してきたが、平成15年度は学生の参加意思があったにも拘らずSARS（重症急性呼吸器症候群）の発生のため研修を中止した。平成13年度より亞洲大学校からは科目等履修生の受け入れを開始している。平成13～15年度には、南京理工大学に出向いて集中講義をした。この集中講義は今後も継続される予定である。このように、亞洲大学校、南京理工大学、バララット大学とは着実に交流活動が行われてきたが、その他の交流協定校とは交流活動がみられなかった。

・交流協定校から本学大学院留学生・科目等履修生の受入れ

交流協定校で学部あるいは大学院を修了した学生を、本学大学院修士課程あるいは博士後期課程に学納金免除の特典を与えて迎え入れている。平成14年度、15年度の2年間に韓国の亞洲大学校から1人を修士課程に受入れた。現在、亞洲大学校から2人の学生を学部科目等履修生として受け入れている。

・英語研修

既述のように、平成13年度と平成14年度に、夏期英語研修をオーストラリア・ヴィクトリア州のバララット大学で3週間の日程で実施したが、平成15年度には希望する学生がいたにも拘らず SARS の発生により実施しなかった。大学院、大学、短期大学の学生に同時に呼びかけて周知を図り、参加人数を確保し、安定化することはこのような事業にとって極めて重要である。また実施にあたって本学における事前説明・研修を数回にわたり丁寧に行うことが、参加学生の姿勢をまとめて行く上で重要である。

(ハ) 提携

大学および短期大学部の交流協定校は巻末資料 56 のとおりである。英語が社会活動に占める重要性が日に日に高まっている今日、英語国の大学との交流は、本学にとって意義が大きい。米国のオレゴン州立大学（工学部）およびオーストラリアのバララット大学との間で新たに交流協定を締結した。

なお、学校法人としては、米国のカリフォルニア州立大学イーストベイ校との間で、教育機関の管理手法習得のための大学教職員の交換等を目的とした協力協定を締結している。

Oregon State University (Corvallis, Oregon, USA : 以下、「オレゴン州立大学」)

設置学部等 Agricultural Science, Business, Engineering, Graduate School, Health and Human Performance, Home Economics and Education, Honors Colleges, Interdisciplinary Studies, Liberal Arts, Oceanic and Atmospheric Sciences, Pharmacy, Reserve Officers Training Corps, Sciences, Veterinary Medicine

University of Ballarat (Ballarat, Victoria, Australia : 以下、「バララット大学」)

設置学部等 Applied Science, Art, Business, Computing, Education, Engineering, Humanities & Social Sciences, Human Movement & Sport Sciences, Information Management/Librarianship, Nursing, Technology of Mining, Geology & Materials

(ニ) 将来の改善・改革に向けた方策

本学が立地する東アジア地域で隣国である韓国および中国の交流協定校との間では、これまで交流を深め、国際交流の実績を十分に積んできた。今後これら既存交流協定校とは交流を維持してより深化させる考えである。他方、英語圏である米国や豪州に交流協定校を持ち英語によるコミュニケーションを要とするグローバル化時代に見合った国際交流環境を整える必要がある。そのため、米国オレゴン州立大学および豪州バララット大学について姉妹校協定を結んだ。今後はこれら2校と実質的な学術・教育・学生の交流を行えるように努力する必要がある。特に、米国および豪州の大学は交換留学およ

び大学院への進学に際して、500点前後の TOEFL のスコアを要求するため、TOEFL テストに対する本学の対応を早急に図る必要がある。この点は重要な留意事項であり適切に対応したい。このように、英語圏の大学と国際交流を深め、交換留学等を進めることは、学生に自己の英語水準の明確化を求めることにつながり、TOEFL スコアという具体的な目標が設定されるから、学生の英語力向上の意識を高めてそれに動機づけを促す有効な手段の一つになる。今後、交換留学等に対する応募基準の整備を進める考えである。

本学・亞洲大・南京理工大の3大学間の合同セミナーは協議の結果、今後は3年毎に実施することとし、3大学以外からも講師を招く等、より国際色の豊かなフォーラムとすることになった。また、3大学間で学生の相互交流を促進することも決め、各提携校が夏期語学・文化集中講義の活発化に考慮するなど、その方向での活動が始まっている。そのための努力を継続する。